

三重県で採集された 3 種の日本新産帰化植物

Three New Naturalized Plants Collected from Mie Prefecture

勝山輝男¹⁾・太田久次²⁾・松本雅人³⁾

Teruo KATSUYAMA¹⁾, Hisatsugu OHTA²⁾ & Masato MATSUMOTO³⁾

Abstract. *Tillaea muscosa* L. (Crassulaceae), *Lepidium fasciculatum* Thell. (Brassicaceae) and, *Urospermum picroides* (L.) Scop. ex F.W.Schmidt (Asteraceae) are found to be newly naturalized in Japan. They all were collected from Mie Prefecture in 2001-2004.

Key words: naturalized plant, *Tillaea muscosa*, *Lepidium fasciculatum*, *Urospermum picroides*, Mie Prefecture

はじめに

2001 年から 2004 年にかけて三重県鈴鹿市や四日市市で採集された不明植物を調べたところ、ベンケイソウ科アズマツメクサ属の *Tillaea muscosa*、アブラナ科マメグンバイナズナ属の *Lepidium fasciculatum*、キク科の *Urospermum picroides* と判明した。それぞれ日本には記録のない帰化植物なので、和名をコケマンネングサ、タマザキマメグンバイナズナ、オニコウゾリナと新称し、形態と帰化状況について報告する。

1. コケマンネングサ (新称) *Tillaea muscosa* L., Sp. Pl. 129 (1753); *Crassula muscosa* sensu Roth, Enum. Pl. Phan. Germ. 1: 994 (1827), non L., Pl. Rar. Afr. 10 (1760); *C. tillaea* Lestr.-Gal., Fl. Jersey 87 (1903)

小型の 1 年草。茎はよく分枝し、直立または伏して、高さ 1-5cm、密に葉と花をつける。葉は対生し、基部は合着、卵形または楕円形で長さ 1-2mm、全縁、紅色を帯びることが多い。花は長さ約 1mm、葉腋に 1-3 個ずつつき、無柄または短い柄がある。萼片は 3 個、披針形で長さ約 1mm。花弁は 3 個、狭披針形で長さ約 0.5mm。雄しべは 3 個、花弁と互生し、花糸は長さ約 0.5mm。袋果は 3 個、

長さ約 0.5mm、2 種子を入れる。種子は楕円形で長さ約 0.25mm、褐色で表面に縦皺がある。

種の同定には Anzalone *et al.* eds. (1982)、Stace (1997)、Webb & Akeroyd (1993) の記述を参考にした。原産地はヨーロッパの西部から中部および地中海沿岸。原産地では砂質地や砂礫地に生えるという。似たものは中近東に *T. alata* Viv. があるが、これは葉が披針形で長さ 3-4mm あり、花に長さ 2-3mm の小花柄がある点が異なる。アズマツメクサ属 (*Tillaea* L.) は、多肉植物として栽培されるクラッスラ属 (*Crassula* L.) に近縁で、アズマツメクサ属をクラッスラ属に含める考えも広く認められている。しかし、日本で出版されている図鑑類はすべてアズマツメクサ属を分ける見解を採用している。

2001 年に鈴鹿市江島の体育館の敷地内の植え込みの間で採集され、2003 年には同市寺家町の畑地内の空き地 16 m² ほどに生育しているのが発見された。両生育地とも 2004 年現在も安定して生育している。小さく目立たない植物なので、鈴鹿市内の住宅地にも広がっている可能性がある。

アズマツメクサ属 (*Tillaea* L.) は日本にはアズマツメクサ (*T. aquatica* L.) 1 種のみが自生し、園芸方面で利用されているものもない。どのような経緯で侵入したかは不明である。英名の Mossy Stonecrop から和名はコケマンネングサと名付けることを提案する。

標本：三重県鈴鹿市江島, Apr.3, 2001, 松本雅人 (KPM-NA0124098); 同, Mar.24, 2002, 松本雅人 (KPM-NA0124096); 同, Mar.28, 2003, 松本雅人 (KPM-NA0124097); 鈴鹿市寺家町, May, 1, 2003, 太田久次 (KPM-NA0124095)

¹⁾ 神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History
499, Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan
勝山輝男 E-mail: katsu@nh.kanagawa-museum.jp

²⁾ 三重県鈴鹿市

Suzuka, Mie

³⁾ 神奈川県植物誌調査会
the Flora-Kanagawa Association

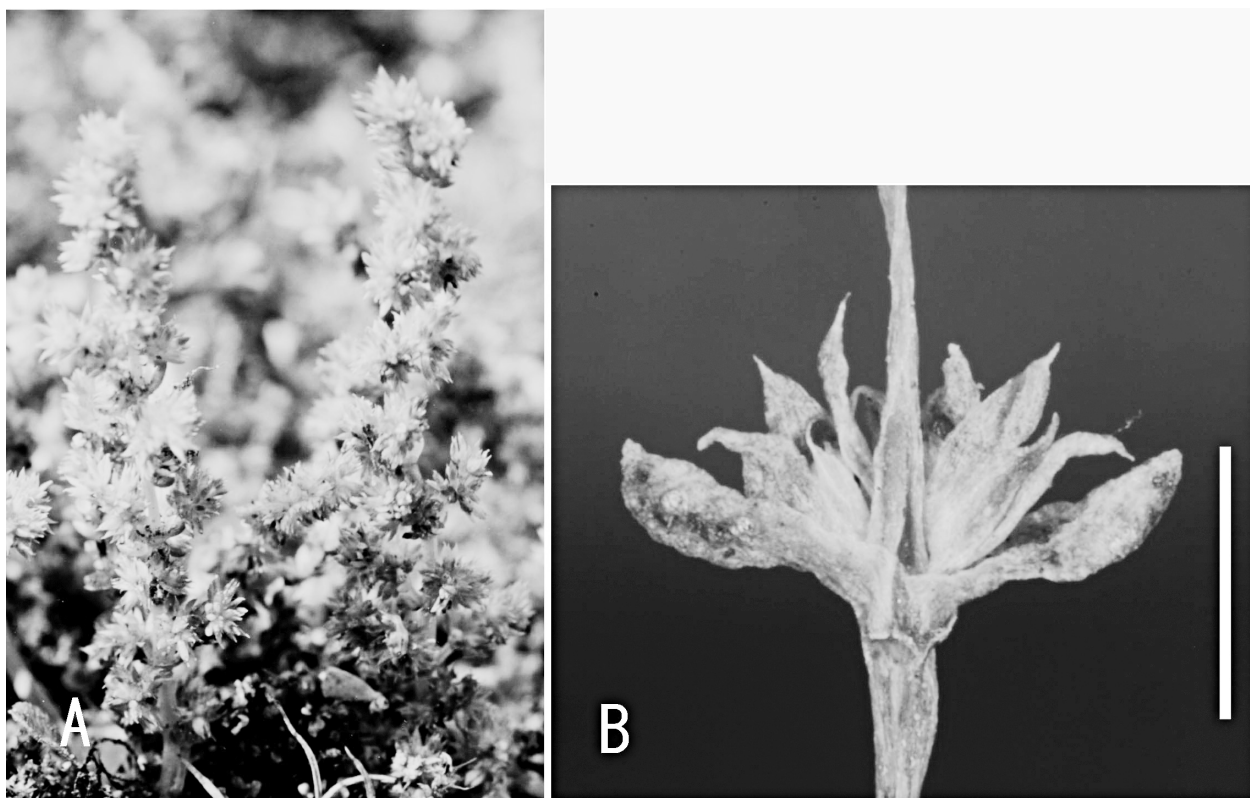


図1. コケマンネングサ *Tillaea muscosa* L. A: 全形. B: 花. スケール 1mm.

Fig.1. *Tillaea muscosa* L. A: Plant. B: Flower. scale 1mm

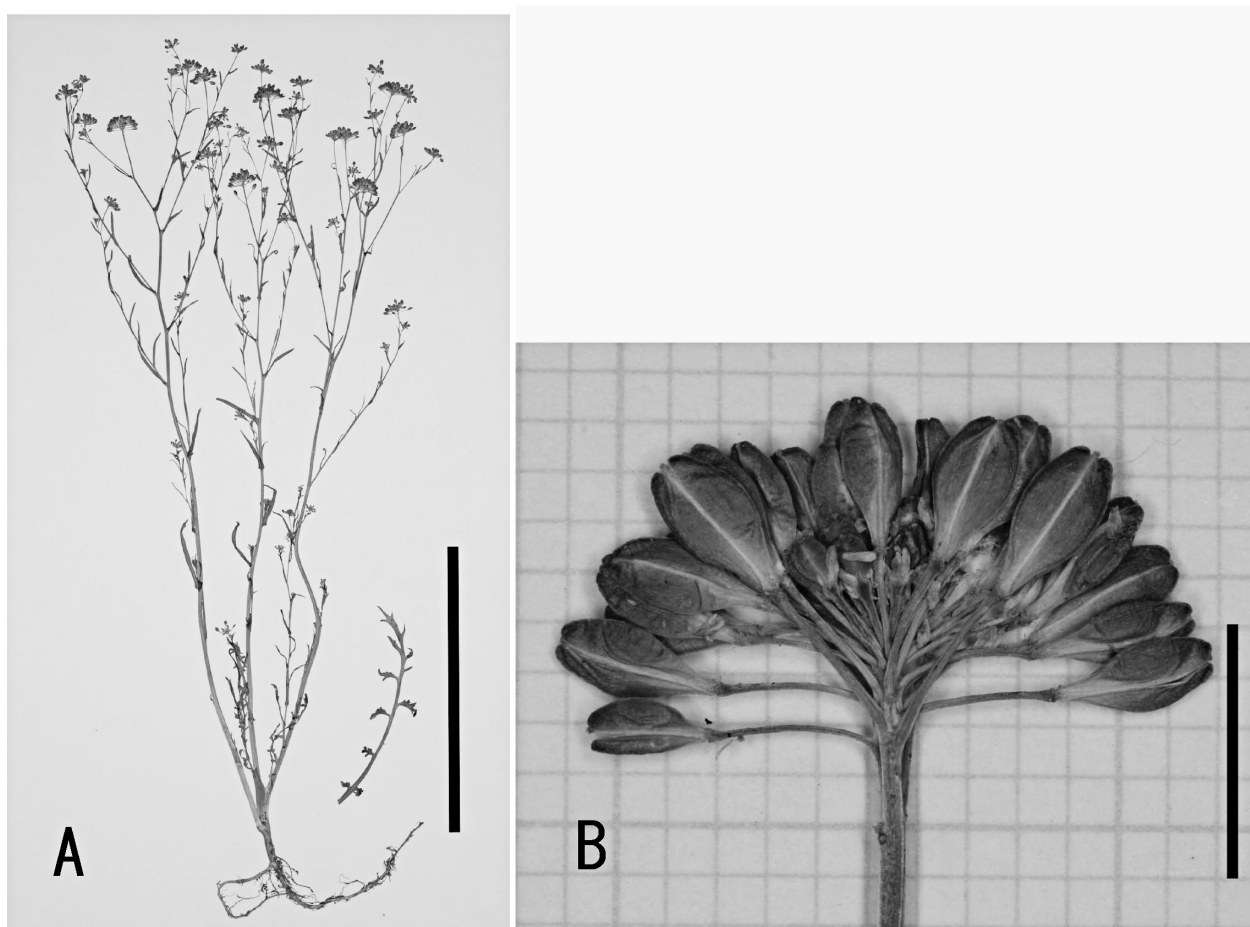


図2. タマザキマメグンバイナズナ *Lepidium fasciculatum* Thell. A: 全形. スケール 10cm. B: 花序. スケール 5mm.

Fig.2. *Lepidium fasciculatum* Thell. A: Plant. scale 10cm. B: Inflorescens. scale 5mm.

2. タマザキマメグンバイナズナ (新称) *Lepidium fasciculatum* Thell., Neue Denkschr. Schweiz. Naturf. Ges. 41, 1:306 (1906)

1 年草。茎は直立し、上部で分枝して、高さ 30-60cm、数個の細い稜があり無毛。根生葉は羽状に深裂し、裂片は羽状に中裂し、両面に粗い毛が疎らに生える。茎葉はしだいに細くなり、上部のものは線形で全縁。総状花序は枝先につき、軸が伸びないため、頭状に密集し、径約 1cm。小花柄は花時に長さ 0.5-1mm、果時に長さ 3-4mm。萼片は 4 個、卵形で長さ約 0.5mm、緑白色で先端が少し紫色を帯びることがある。花弁は退化してきわめて小さいか、ときに消失する。雄しべは 2 個、萼片より少し長い。短角果は倒卵形で扁平、長さ 3-4mm、幅 1.5-2mm、上半部にきわめて狭い翼があり、上端は浅く凹み、柱頭が残る。種子は各室に 1 個、褐色、長楕円形で長さ 1.2-1.5mm、幅

0.6-0.7mm。

種の同定には Hewson (1986) の記述と図を用いた。オーストラリア原産。原産地では畑地の雑草。日本にはマメグンバイナズナ属 (*Lepidium* L.) はすでに 9 種が帰化しているが、本種は総状花序の軸が伸びず、結実期にも花が頭状に密集するため、区別は容易である。

採集地は輸入された小麦などの穀物を保管するサイロの近くで、これらの穀物に混入して種子が持ち込まれたものと推定される。3.3 m²ほどのところに生育しており、今のところ一時的な発生にすぎないが、マメグンバイナズナ属の種子は小さく、靴底や車のタイヤなどに付着して散布されるので、今後、他でも発見される可能性がある。

標本：三重県四日市港, Apr.20, 2004, 松本雅人 (KPM-NA0124100)

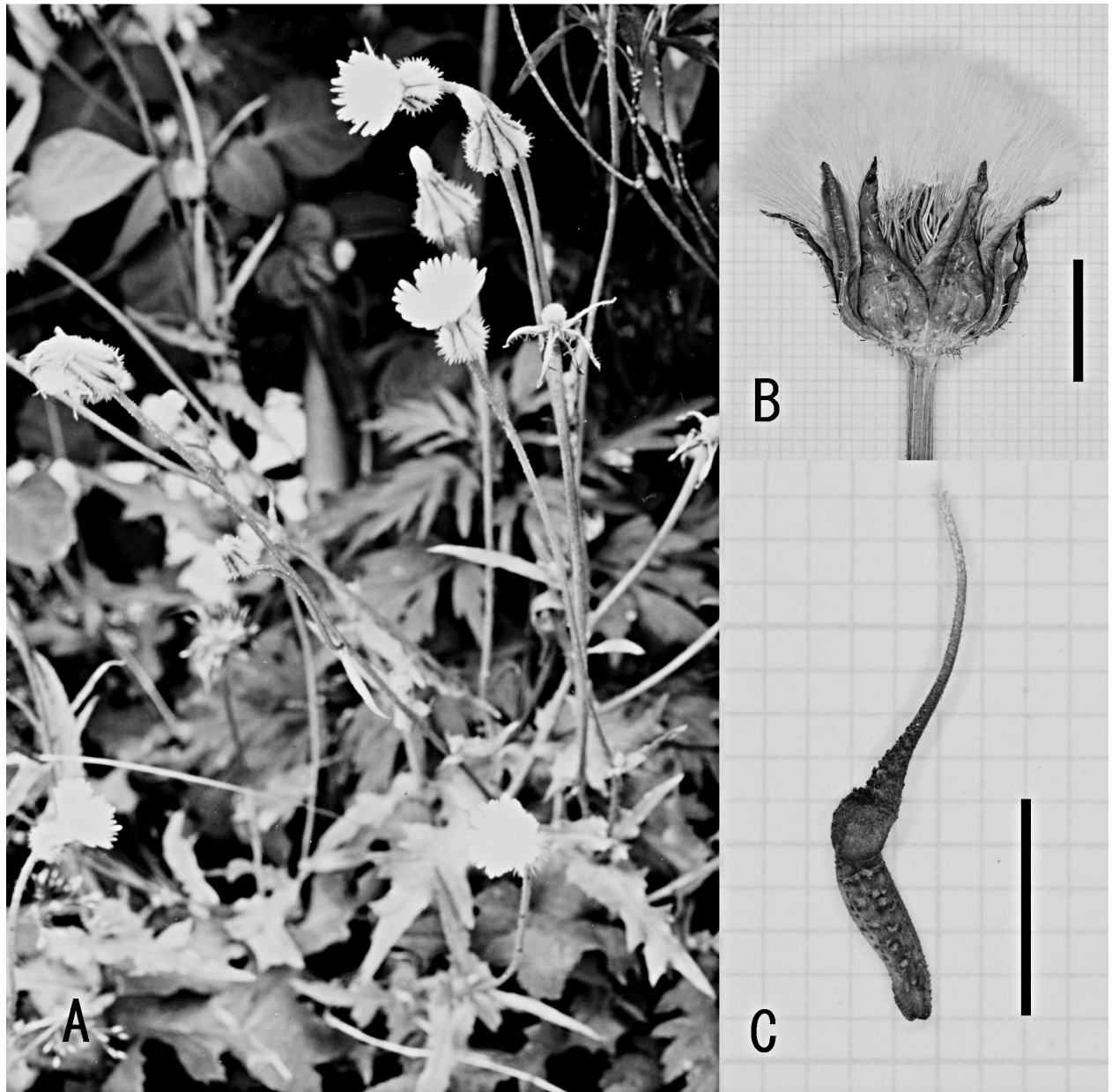


図 3. オニコウゾリナ *Urospermum picroides* (L.) Scop. ex F.W.Schmidt A: 全形. B: 頭花. スケール 1cm. C: 瘦果. スケール 5mm.
Fig.3. *Urospermum picroides* (L.) Scop. ex F.W.Schmidt A: Plant. B: Involucre. scale 1cm. C: Achen. scale 5mm.

3. オニコウゾリナ (新称) *Urospermum picroides* (L.)
Scop. ex F.W.Schmidt, Samml. Phys. Aufz. Naturk. 275 (1795);
Tragopogon picroides L., Sp. Pl. 790 (1753)

1 年草。茎は直立し、高さ 30-50cm、刺状毛が生えて著しくざらつく。根生葉は柄があり、倒披針形で先は円く、鋸歯縁。茎葉は柄がなく、長楕円形～披針形、基部は耳状になって茎を抱き、先は下方のものは鈍く、上方のものは尖り、長さ 5-10cm、羽状に浅～中裂し、鋸歯縁、両面ともに粗毛を散生し、下面脈上には刺状毛がある。頭花は単生し、総苞は径 1-2cm。総苞片は 7-9 個、狭卵形で先は尖り、長さ 1-1.5cm、背面には刺がある。舌状花は黄色で総苞よりも長い。瘦果は嘴を含めて長さ 10-15mm、本体は瘤状の刺があり、嘴の付け根近くでくの字状に曲がり、先は急に狭くなり嘴に移行し、嘴は長さ 6-8mm あり著しくざらつく。冠毛は白色、羽毛状で長さ約 1cm。

種の同定には Anzalone *et al.* eds. (1982), Feinbrun-Dothan (1978), Mandaville (1990), Sell (1976) の記述や図を用いた。地中海沿岸原産。西はイベリア半島、東はサウジアラビアやイランまで分布している。原産地では畑地や乾燥した荒地に生えるという。*Urospermum* Scop はノゲシ属 (*Sonchus* L.) に近縁で、ヨーロッパの地中海沿岸から中近東にかけて 2 種がある。全体に刺状毛があってざらつく点がコウゾリナ *Pycris japonica* Thunb. に似ていて、頭花が大きいのでオ

ニコウゾリナと名付けることを提案する。

2003 年に四日市港霞コンテナ埠頭の路傍で 10 数株が生育しているのを発見し、後日、100 m ほど離れた公園内の路傍にも多数が生育しているのを確認した。発見 1 年後の

文献

- Anzalone, B., A. Becherer, F. Ehrendorfer, H. Merxmüller, H. Metlesics, G. Montelucci, F. Rasetti, T. Reichstein & I. Segelberg eds., 1982. Sandro Pignatti Flora D' Italia. Vol. 1-3. 790pp.+732pp.+780pp. Edagricole, Bologna.
- Feinbrun-Dothan, N., 1978. Flora Palaestina Part. 3. 482pp.+757pls. The Israel Academy of Sciences and Humanities, Jerusalem.
- Hewson, H. J., 1986. Cruciferae. in Jessop J. P. & H. R. Toelken eds., Flora of South Australia Part. 1, Fourth ed. pp. 375-417. South Australian Government Printing Division, Adelaide.
- Mandaville, J. P., 1990. Flora Eastern Saudi Arabia. 482pp. Kegan Paul International, London.
- Sell, P. D., 1976. *Urospermum*. in Tutin, T. G., V. H. Heywood, D. M. Moore, D. H. Valentine, S. M. Walters & D. A. Webb eds., Flora Europaea, Vol. 4. p. 308. Cambridge University Press, London.
- Stace, C., 1997. New Flora of the British Isles Second edition. 1130pp. Cambridge University Press, Cambridge.
- Webb, D. A. & J. R. Akeroyd, 1993. *Crassula*. in Tutin, T. G., N. A. Burges, A. O. Chater, J. R. Edmondson, V. H. Heywood, D. M. Moore, D. H. Valentine, S. M. Walters & D. A. Webb eds., Flora Europaea, Vol. 1. Second edition. pp. 422-423. Cambridge University Press,

摘 要

勝山輝男・太田久次・松本雅人, 2005. 三重県で採集された 3 種の日本新産帰化植物. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (34): 65-68. (Katsuyama, T., H. Koba & Masato Matsumoto, 2005. Three New Naturalized Plants Collected from Mie Prefecture. *Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.)*, 34: 65-68.)

三重県鈴鹿市や四日市市において日本には記録のない帰化植物 *Tillaea muscosa*、*Lepidium fasciculatum*、*Urospermum picroides* が採集された。和名をそれぞれコケマンネングサ、タマザキマメゲンバイナズナ、オニコウゾリナと新称する。

(受付 2004 年 12 月 28 日; 受理 2005 年 1 月 21 日)